

令和6年度
第2回学校運営協議会兼
第2回学校関係者評価委員会

第2回学校関係者評価委員会資料
学校評価アンケート結果より

令和7年 3 月7日(金)
生駒市立生駒北小学校

1・2年 児童アンケート(オンライン)

じぶんのことを おもいだして、こたえましょう。あてはまる ばんごうに ○をつけましょう。

ねん くみ なまえ ()

		思いだすこと	そう思う	どちらかといえ ばそう思う	どちらかといえ ばそう思わない	そう思わ ない
が く し ゅ う	1-①	じゅぎょう中は ともだちのはっぴょうを じぶんのいけんとくらべながらきき、しっかりとかがえた。	4	3	2	1
	1-②	じゅぎょう中は すすんではっぴょうし、じぶんのいけんや かがえを いうことができた。	4	3	2	1
	1-③	1年生は20ぶんかん、2年生は30ぶんかん、かていがくしゅうをした。	4	3	2	1
	1-④	さどうきょうしつや さほうきょうしつなどで、日本のぶんかやしきたりについて、きょうみをもってべんきょうした。	4	3	2	1
	1-⑤	じゅぎょうやかていがくしゅうで、タブレットをせっきょくてきにかつようした。	4	3	2	1
	1-⑥	いえで、10ぶんいじょう、本を よんでいる。	4	3	2	1
	1-⑦	たのしく えいごのがくしゅうをした。	4	3	2	1
せ い か つ	2-①	がっこうせいかつのきまりや、こうつうルール、ともだちとのやくそくを まもった。	4	3	2	1
	2-②	がっこうのせんせい、ともだち、きんじょの人に、ていねいなことばをつかった。	4	3	2	1
	2-③	いじめたり、わるぐちをいったりして、あいてをきずつけるようなことを しなかった。	4	3	2	1
	2-④	ともだちや年下の子を たいせつにして、なかよくできるようにした。	4	3	2	1
	2-⑤	がっかつやどうとくのじかんに、じぶんもともだちもたいせつにするためには どうすればよいかを かがえた。	4	3	2	1
	2-⑥	じぶんやまわりの人を きずつけないために タブレットは だしくつかおうとした。	4	3	2	1
あ け ん ぜ こ ん う	3-①	やすみじかんは、そとに出てあそんだり、うんどうしたりした。	4	3	2	1
	3-②	けんこうのことを かがえて、きれいなものや にがてなものも がんばって たべようとした。	4	3	2	1
	3-③	たいいくのじかんには、しっかりと体をうごかして うんどうした。	4	3	2	1
が っ こ う	4-①	いこまきた しょうちゅうがっこうは、たのしい。	4	3	2	1
	4-②	こころにのこる がくしゅうやうんどう、ぎょうじがあった。	4	3	2	1

3・4年 児童アンケート(オンライン)

じぶんのことを おもいだして、こたえましょう。あてはまる ばんごうに ○をつけましょう。

ねん くみ なまえ ()

		思いだすこと	そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらかといえばそう思わない	そう思わない
がくしゅう	1-①	じゅぎょう中は 友だちのはっぴょうを 自分のいけんとくらべながらきき、しっかりと考えた。	4	3	2	1
	1-②	じゅぎょう中は すすんではっぴょうし、自分のいけんや考えを言うことができた。	4	3	2	1
	1-③	3年生は40分間、4年生は50分間、家庭学習をした。	4	3	2	1
	1-④	さどう教室や さほう教室などで、日本の文化やしきたりについて、きょうみをもって べんきょうした。	4	3	2	1
	1-⑤	じゅぎょうや家庭学習で、タブレットをせっきよくてきにかつようした。	4	3	2	1
	1-⑥	家で、20分いじょう、本を 読んでいる。	4	3	2	1
	1-⑦	楽しく えいごの学習をした。	4	3	2	1
せいかつ	2-①	学校生かつのきまりや、交通ルール、友だちとのやくそくを まもった。	4	3	2	1
	2-②	学校の先生、友だち、近所の人に、ていねいなことばを使った。	4	3	2	1
	2-③	あいてをきずつけないように、いじめたり、わる口を言ったりするようなことを しなかった。	4	3	2	1
	2-④	友だちや年下の子を 大切にして、なかよくできるようにした。	4	3	2	1
	2-⑤	学活や道徳の時間に、自分も友だちも大切にするためにはどうすればよいかをしっかりと考えた。	4	3	2	1
	2-⑥	自分やまわりの人をきずつけないためには どうすればよいかをしっかりと考えて、タブレットなどを利用した。	4	3	2	1
あけんぜこう	3-①	休み時間は、外に出てあそんだり、運動したりした。	4	3	2	1
	3-②	けんこうのことを 考えて、きれいなものや にが手なものも がんばって 食べようとした。	4	3	2	1
	3-③	体育の時間には、しっかりと体を動かして 運動した。	4	3	2	1
がっこう	4-①	いこま北小中学校は、楽しい。	4	3	2	1
	4-②	心にのこる 学習や運動、ぎょうじがあった。	4	3	2	1

5・6年 児童アンケート(オンライン)

自分のことを思い出して、答えましょう。当てはまる番号に○をつけましょう。

年 組 名前 ()

		思い出すこと	そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらかといえばそう思わない	そう思わない
学習	1-①	授業中は、友だちの意見や発表を自分の意見と比べながら集中して聞き、しっかりと考えた。	4	3	2	1
	1-②	授業中は進んで発表し、自分の意見や考えを述べた。	4	3	2	1
	1-③	家で1時間、家庭学習をした。	4	3	2	1
	1-④	日本の文化やしきたりについて、興味を持って勉強した。	4	3	2	1
	1-⑤	授業や家庭学習で、タブレット端末を積極的に活用した。	4	3	2	1
	1-⑥	家で30分以上、本や新聞を読んでいる。	4	3	2	1
	1-⑦	英語の授業にしっかり取り組み、英語で会話をしたり、自分のことを発表したりした。	4	3	2	1
生活	2-①	学校生活のきまりや交通ルール、友だちとの約束を守った。	4	3	2	1
	2-②	学校の先生、友だち、近所の人に、ていねいで適切な言葉を使った。	4	3	2	1
	2-③	友だちと仲良く過ごし、相手の気持ちが傷つかないように、いじめたり、陰で悪口を言ったりしなかった。	4	3	2	1
	2-④	年下の子を大事にし、年下の子からしたわれたり、たよられたりした。	4	3	2	1
	2-⑤	学活や道徳の時間に、自分も友だちも大切にするためにはどうすればよいかをしっかりと考え、行動した。	4	3	2	1
	2-⑥	自分や周囲の人の人権を守るためにはどうすればよいかをしっかりと考えて、タブレット等の情報機器を利用した。	4	3	2	1
健康安全	3-①	休み時間はなるべく外に出て遊んだり、運動したりしている。	4	3	2	1
	3-②	健康のことを考え、苦手なものやきらいなものも、がんばって食べようとした。	4	3	2	1
	3-③	体育の時間には、しっかりと体を動かして運動した。	4	3	2	1
学校	4-①	生駒北小中学校は、楽しい。	4	3	2	1
	4-②	心に残る学習や運動、行事があった。	4	3	2	1

R6年度末 全校児童アンケート

分類	番号	全校	そう思う (%)	だいたいそ う思う(%)	あまりそ う思わな い(%)	そう思わな い(%)	肯定意見 (%)	否定意見 (%)
		項目						
学 習	1-①	思考力・判断力の育成	41	42	16	1	83	17
	1-②	表現力の育成	37	37	15	11	74	26
	1-③	適切な時間での家庭学習の定着	34	33	18	16	66	34
	1-④	伝統文化にふれる学習の推進	48	30	20	2	77	23
	1-⑤	ICTを活用した学習の推進	47	30	16	7	77	23
	1-⑥	読書習慣の確立	25	13	30	33	38	62
	1-⑦	外国語活動・外国語教育の推進	70	20	7	2	91	9
生 活	2-①	きまりや約束・規則の順守	54	39	7	0	93	7
	2-②	丁寧な言葉遣い	52	34	14	0	86	14
	2-③	いじめを許さない態度	44	35	16	4	80	20
	2-④	年下への思いやり	57	36	2	5	93	7
	2-⑤	自他尊重精神の醸成	54	35	8	2	89	11
	2-⑥	情報モラル教育	55	25	15	5	80	20
安 全 健 康	3-①	外遊びの習慣化	56	15	18	11	70	30
	3-②	適切な食習慣	53	30	11	5	84	16
	3-③	授業中の運動量の確保	80	15	5	0	95	5
学 校	4-①	楽しい学校生活	66	25	6	2	92	8
	4-②	充実した学校生活	73	23	2	2	96	4

肯定的意見の割合が85以上

否定的意見の割合が31以上

肯定的意見の割合が90～100

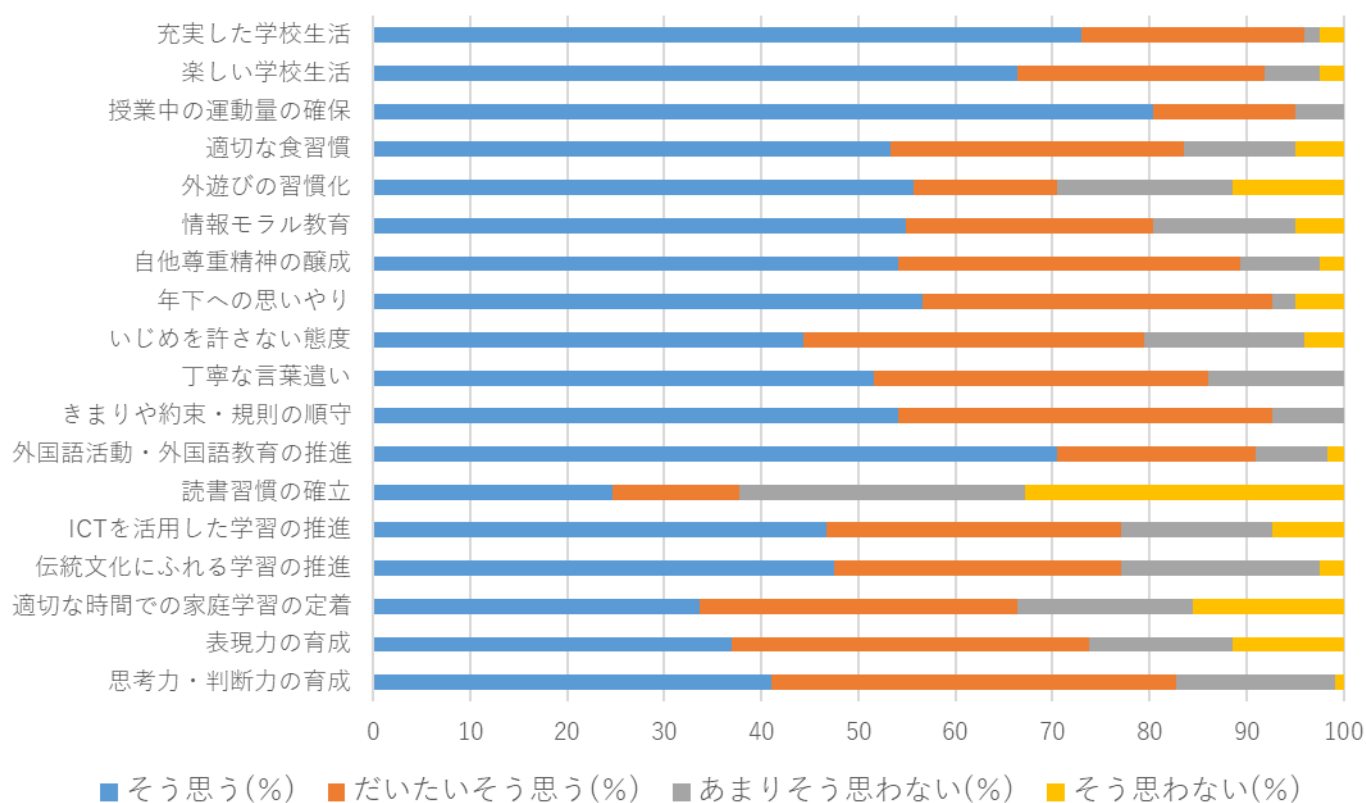
肯定的意見の割合が80～89

否定的意見の割合が41以上

否定的意見の割合が31～40

否定的意見の割合が21～30

R6年度末 全校児童アンケート



児童アンケートの考察

R6年度末 各学年及び全校児童アンケート

分類	番号	項目	肯定的意見(%)							否定的意見(%)						
			1年	2年	3年	4年	5年	6年	全校	1年	2年	3年	4年	5年	6年	全校
学 習	1-①	思考力・判断力の育成	95	82	76	72	93	81	83	5	18	24	28	7	19	17
	1-②	表現力の育成	86	86	65	76	60	62	74	14	14	35	24	40	38	26
	1-③	適切な時間での家庭学習の定着	95	82	41	36	67	76	66	5	18	59	64	33	24	34
	1-④	伝統文化にふれる学習の推進	100	77	71	88	53	62	77	0	23	29	12	47	38	23
	1-⑤	ICTを活用した学習の推進	86	68	82	72	80	76	77	14	32	18	28	20	24	23
	1-⑥	読書習慣の確立	59	41	41	28	27	29	38	41	59	59	72	73	71	62
	1-⑦	外国語活動・外国語教育の推進	100	95	94	92	80	81	91	0	5	6	8	20	19	9
生 活	2-①	きまりや約束・規則の順守	95	95	94	88	87	95	93	5	5	6	12	13	5	7
	2-②	丁寧な言葉遣い	100	91	65	80	93	86	86	0	9	35	20	7	14	14
	2-③	いじめを許さない態度	95	77	71	84	73	71	80	5	23	29	16	27	29	20
	2-④	年下への思いやり	95	100	100	92	80	86	93	5	0	0	8	20	14	7
	2-⑤	自他尊重精神の醸成	100	91	71	96	87	86	89	0	9	29	4	13	14	11
	2-⑥	情報モラル教育	95	100	59	68	80	76	80	5	0	41	32	20	24	20
安 全 健 全	3-①	外遊びの習慣化	86	82	82	60	53	57	70	14	18	18	40	47	43	30
	3-②	適切な食習慣	95	86	76	68	93	86	84	5	14	24	32	7	14	16
	3-③	授業中の運動量の確保	100	100	100	96	93	81	95	0	0	0	4	7	19	5
学 校	4-①	楽しい学校生活	100	95	94	92	93	76	92	0	5	6	8	7	24	8
	4-②	充実した学校生活	100	91	100	96	100	90	96	0	9	0	4	0	10	4
		肯定的意見が85%以上														
		肯定的意見が31%以上														

・今回の年度末アンケートで児童の肯定的意見が比較的に高い割合だったのは、「外国語活動・外国語教育の推進」「きまりや約束・規則の順守」「丁寧な言葉遣い」「年下への思いやり」「自他尊重精神の醸成」「授業中の運動量の確保」「楽しい学校生活」「充実した学校生活」の8項目で、いずれも 85%以上の児童が肯定的な評価をしている。特に「外国語活動・外国語教育の推進」「きまりや約束・規則の順守」「丁寧な言葉遣い」「年下への思いやり」「授業中の運動量の確保」「楽しい学校生活」「充実した学校生活」の6項目は、9割以上の児童が肯定的な評価をしており、多くの学年で高い達成率であった。中でも「授業中の運動量の確保」「充実した学校生活」は、95%、96%の達成率であり、今年度の教育活動において十分達成できたといえる。特に「充実した学校生活」は、集団活動の場である学校生活において自己有用感の向上を目指すうえでも必要不可欠で大切な要素である。このことから本校の児童は、多くの児童が行事や様々な教育活動に積極的に参加して、充実した学校生活を送っているということがいえ、今年度の教育活動において大きな問題は無く、概ね児童が積極的に参加する教育活動が展開されていたといえる。来年度の教育活動においても、これらの点を大事にして更なる教育活動の充実を進めていきたい。また、「丁寧な言葉遣い」「自他尊重精神の醸成」の2項目も、それぞれ 86%、89%であり、今年度の教育活動において概ね目標を達成したように思われる。しかしながら、それぞれの項目において学年間で達成率に開きが見られる。来年度の教育活動においては、全ての学年で安定した達成がなされるように取組の強化を図っていきたい。

・肯定的意見の割合が高い項目が1番多い学年は1年生で、18 項目中 17 項目で肯定的な評価をしている。次いで肯定的な回答が多い学年は2年生で、18 項目中 14 項目で肯定的な評価をしている。5年生は 18 項目中 12 項目、4年生は 18 項目中 10 項目、6年生は 18 項目中9項目、3年生は 18 項目中8項目で肯定的な評価をしている。各学年の肯定的評価の項目を見てみると、低学年は肯定的意見の割合が高い項目が多く、中高学年でその数が減る傾向であることがわかる。これは、学年が上がるにつれて児童が自分自身を俯瞰できるようになり、評価も厳しくなっているということが原因の1つとして考えられ、児童の成長とも捉えることができると思われる。しかし、今よりも楽しく充実した学校生活を送るために、また、児童が自身を認められるといった自己肯定感の獲得のために、各項目で肯定評価が多い方が良いのは間違いないことである。来年度、引き続き低評価であった項目に重点的に取り組み、改善を図っていききたい。

・否定的意見で高い割合だった項目は、「適切な時間での家庭学習の定着」「読書習慣の確立」の2項目で、それぞれ 34%、62%の児童が否定的な回答をしていた。「適切な時間での家庭学習の定着」は、1年生、2年生は達成率が 95%、82%であるのに対し、3年生では 41%、4年生では 36%、5年生では 67%、6年生では 76%の達成率となっている。学校生活に慣れた中学年の達成率の落ち込みがとても気になる。適切な時間で家庭学習を行うという習慣を身に付けておくことは、児童が上級学校へ進学した際に必要不可欠なことである。児童への宿題の出し方の工夫や、懇談等を通じて保護者にも、家庭学習の習慣化の重要性を引き続き啓発していきたい。「読書習慣の確立」は、否定的意見が 62%という受けとめがたい結果が出ている。本校の継続課題となっている。学校では、学校司書が図書館だよりを発行したり『押し本』を目立つようにレイアウトしてもらったりして読書に対する興味や意識付けを図ったり、読書ボランティアによる読み聞かせ活動の実施などの取組を行い、児童にとって図書の本が身近な物になるよう取り組んでいるところである。読書は、想像力や思考力、判断力の育成に有効であり、その習慣化は是非とも図りたいところである。そのためにも今までの取組を継続しながら、さらに強化を図っていききたい。また、家庭にも協力を仰いで、児童の読書習慣の確立を目指していきたい。

教員アンケート

R6年度 学校評価（北小） 自己評価

名前（ ）

評価指数
 4) できた 3) 概ねできた 2) あまりできていない 1) できていない

重点目標・重点課題			達成目標・評価指数	評価
県	生駒市	本校		
知： 確かな学力の育成	①課題の発見や解決に向けた主体的・対話的で深い学びの実現 ②地域と連携した協働活動の充実 ③グローバル時代に対応した英語教育の推進 ⑦読書活動の充実	思考力・判断力・表現力の育成	授業中は、自らの意見と比較しながら他者の意見を集中して聞き、進んで意見を述べることでお互いの意見や考えを共有するよう児童に指導した。	
		適切な時間での家庭学習	トライウィークの期間中、学年ごとの目安となる学習時間を提示するなど、児童や家庭へ家庭学習の充実を促した。	
		伝統文化に触れる学習	茶道・作法教室で学ぶ意味や、地域の伝統文化や文化財、和の文化やしきたりについて児童が興味を持てるような取組を行った。	
		ICTを活用した学習	電子黒板やタブレット端末を使った授業を日常的に行い、タブレット端末を活用した個別学習を実現した。	
		読書習慣の確立	児童に家庭でも読書する習慣を身につけさせるために、学校図書館を活用して読書への興味関心を持たせた。	
		外国語活動、外国語教育の推進	ALTなどと協力して主体的・対話的で楽しい授業を展開し、児童に英語や外国文化に興味・関心を持たせ、進んでコミュニケーションをとるように指導した。	
徳： 豊かな人間性の育成	④規範意識や情報モラルについて主体的に考える道徳教育の充実 ⑤自尊感情の醸成 ⑥全ての児童の心の居場所づくり ⑧幼稚園・保育園・こども園との接続ならびに中学校との連携	きまりや約束、規則の順守	学校生活を通じて、ルールやマナーを守ることの大切さを伝え、児童らにルールやマナーを守ることの意味を理解させた。	
		丁寧な言葉遣い	相手の立場を思いやった丁寧な言葉遣いをするように、児童に指導した。	
		いじめのない学校づくり	人を傷つける言葉や人を力づける言葉について各学期に授業を行い、児童にいじめについての指導を行った。	
		年下への思いやり	異学年交流を通じて、児童に年下の子を思いやる心を育んだ。	
		自他尊重精神の育成	学級活動や道徳の時間を通じて、児童に自他を尊重する意識を持たせた。	
		情報モラルの教育・啓発	自他の人権を守るために、正しく情報機器を利用することの必要性を児童に指導し、家庭に啓発した。	
体： たくましい心身の育成	⑨健康でたくましい体づくり	外遊びの習慣化	児童に外遊びをすすめたり、一緒に遊んだりして、児童が外で元気に遊ぶように環境を整備した。	
		適切な食育	学活や保健、給食指導を通じて、児童に正しい食生活のあり方を学ばせた。	
		授業中の運動量の確保	児童が意欲的に体を動かすよう体育の授業を工夫し、十分な運動量を確保した。	

R6 年度末 教員アンケート

分類	番号	全教員	できた (%)	おおむね できた(%)	あまり できて いない (%)	できて いない (%)	肯定意 見 (%)	否定意 見 (%)
		項目						
確 かな 学 力	1-①	思考力・判断力・表現力の育成	29	71	0	0	100	0
	1-②	適切な時間での家庭学習	57	43	0	0	100	0
	1-③	伝統文化にふれる学習	71	14	14	0	86	14
	1-④	ICTを活用した学習	71	14	14	0	86	14
	1-⑤	読書習慣の確立	57	29	14	0	86	14
	1-⑥	外国語活動、外国語教育の推進	43	43	14	0	86	14
豊 か な 心	2-①	きまりや約束、規則の順守	71	29	0	0	100	0
	2-②	丁寧な言葉遣い	57	43	0	0	100	0
	2-③	いじめのない学校づくり	71	29	0	0	100	0
	2-④	年下への思いやり	71	29	0	0	100	0
	2-⑤	自己尊重精神の育成	71	29	0	0	100	0
	2-⑥	情報モラルの教育・啓発	71	29	0	0	100	0
身 違 の し 育 い 成 心	3-①	外遊びの習慣化	29	57	14	0	86	14
	3-②	適切な食育	57	14	29	0	71	29
	3-③	授業中の運動量の確保	71	14	14	0	86	14

肯定的意見の割合が80以上

否定的意見の割合が31以上

肯定的意見の割合が90～100

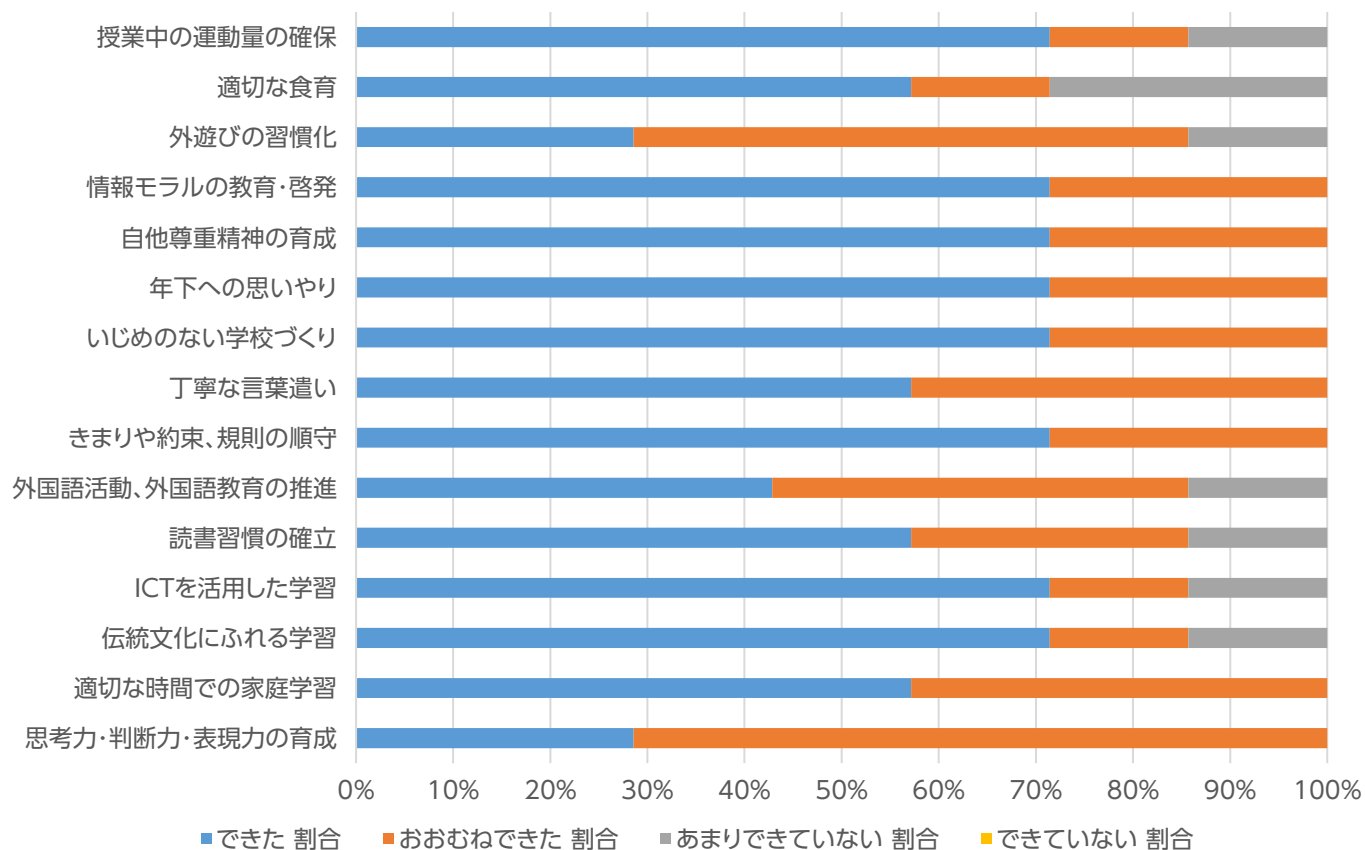
肯定的意見の割合が80～89

否定的意見の割合が41以上

否定的意見の割合が31～40

否定的意見の割合が21～30

R6年度末 教員アンケート



教員アンケートの考察

・今回のアンケートで、教員の肯定的意見の割合が高かった項目は、「思考力・判断力・表現力の育成」「適切な時間での家庭学習」「きまりや約束、規則の順守」「丁寧な言葉遣い」「いじめのない学校づくり」「年下への思いやり」「自他尊重精神の育成」「情報モラルの教育・啓発」の8項目で、100%の肯定的評価となっている。また、比較的肯定的意見の割合が高かった項目は「伝統文化にふれる学習」「ICT を活用した学習」「読書習慣の確立」「外国語活動・外国語教育の推進」「外遊びの習慣化」「授業中の運動量の確保」の6項目で、85%以上の肯定的な評価となっている。

・否定的意見が高い割合だった項目は、「適切な食育」の1項目であり、教育活動の取組に改善の余地があると感じている項目と思われる。この項目については、保護者も低評価をしており、取組の充実や教育活動の家庭への周知についての改善が必要と考えられる。引き続き、取組の改善を図っていきたい。

・教員は児童、保護者と比べると、全体的に取組に対しての肯定的意見の割合がとても高く、肯定的に捉える項目も多い。15項目中14項目で肯定的意見の割合が85%以上であり、児童や保護者の評価と乖離している点も多い。その改善策として、教員一人ひとりが教育活動を俯瞰的な視点で見つめ直し、本校の学校評価におけるPDCAサイクルをしっかりと機能させることが大切である。そこから明らかになった課題については、次年度への継続課題として取組の強化を図っていきたい。

小学校保護者学校教育アンケート(オンライン)

当てはまる番号に○をつけてください。

お子さんの学年（ ）出席番号（ ）

		評価の視点	そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらかといえばそう思わない	そう思わない
学習	1-①	お子さんは、授業を通して友だちと自分の意見を比較して聞き、しっかりと考える姿勢を身につけていますか。	4	3	2	1
	1-②	お子さんは、学習活動を通じて自分の意見や考えを言えるようになってきましたか。	4	3	2	1
	1-③	お子さんは、「家庭学習のてびき」で示した学年毎の目安の時間、家庭学習をしていますか。	4	3	2	1
	1-④	お子さんは、茶道教室や作法教室などを通じて、日本の文化やしきたりについて興味を持つことができるようになりましたか。	4	3	2	1
	1-⑤	お子さんは、授業や家庭学習でタブレットを使って学習することで、意欲的に学習に取り組んでいますか。	4	3	2	1
	1-⑥	お子さんは、家で読書をしていますか。	4	3	2	1
	1-⑦	お子さんは、外国語学習を通じて英語を使ってみようとしたり、外国の文化に興味を持ったりするようになりましたか。	4	3	2	1
生活	2-①	お子さんは、学校生活のきまりや交通ルール、友だちとの約束を守ることができていますか。	4	3	2	1
	2-②	お子さんは、近所の人や教員、友達に対して丁寧な言葉を使っていますか。	4	3	2	1
	2-③	お子さんは、相手を傷つけるようなことをせず、友だちと仲良くしていますか。	4	3	2	1
	2-④	お子さんは、年下の子を大事にしようとしていますか。	4	3	2	1
	2-⑤	お子さんは、学校生活を通じて自他ともに尊重されることの大切さに気づき、そうしようとしていますか。	4	3	2	1
	2-⑥	お子さんは、学習活動を通して情報モラルの大切さに気づき、人権尊重の考えを踏まえたうえで、タブレット等の情報機器を正しく使っていますか。	4	3	2	1
健康 安全	3-①	お子さんは、積極的に体を動かし、外遊びや運動をしていますか。	4	3	2	1
	3-②	お子さんは、教育活動を通じて正しい食生活のあり方に気づき、それを実践しようとしていますか。	4	3	2	1
学校	4-①	学校は、お子さんが楽しい学校生活を送ることができるように配慮していますか。	4	3	2	1
	4-②	学校は、お子さんの心に残るような学習や行事などの教育活動を実践していますか。	4	3	2	1
	4-③	学校は、様々な体験活動を通してお子さんに生きる力を身に付けていますか。	4	3	2	1
	4-④	学校は、外部人材を招いて体験活動を取り入れた学習を進めるなど、地域の教育力を生かした教育を行っていますか。	4	3	2	1
	4-⑤	学校は、教育方針や教育活動を分かりやすく伝え、家庭と連携を図ろうとしていますか。	4	3	2	1

保護者アンケートの考察

R6 年度末 全保護者アンケート

全保護者			そう思う%	どちらかといえばそう思う(%)	どちらかといえばそう思わない(%)	そう思わない%	肯定意見(%)	否定意見(%)
分類	番号	項目						
学 習	1-①	思考力・判断力の育成	41	39	17	2	81	19
	1-②	表現力の育成	46	38	14	2	84	16
	1-③	適切な時間での家庭学習の定着	28	25	28	19	53	47
	1-④	伝統文化にふれる学習の推進	35	42	18	5	77	23
	1-⑤	ICTを活用した学習の推進	26	44	23	7	70	30
	1-⑥	読書習慣の確立	24	18	30	28	42	58
	1-⑦	外国語活動・外国語教育の推進	26	25	37	13	51	49
生 活	2-①	きまりや約束・規則の順守	57	34	8	2	90	10
	2-②	丁寧な言葉遣い	25	53	14	8	78	22
	2-③	いじめを許さない態度	46	40	13	1	87	13
	2-④	年下への思いやり	59	31	10	1	89	11
	2-⑤	自他尊重精神の醸成	35	44	20	1	79	21
	2-⑥	情報モラル教育	25	44	28	3	69	31
安 健 全 康	3-①	外遊びの習慣化	54	28	11	8	82	18
	3-②	適切な食習慣	31	36	28	6	66	34
学 校	4-①	楽しい学校生活	45	47	6	2	92	8
	4-②	充実した学校生活	52	38	9	1	90	10
	4-③	充実した体験活動	41	46	10	3	88	13
	4-④	地域とつながる教育体制	42	46	10	2	88	12
	4-⑤	家庭との連携	35	42	18	5	77	23

肯定的意見の割合が80以上

否定的意見の割合が31以上

肯定的意見の割合が90～100

肯定的意見の割合が80～89

否定的意見の割合が41以上

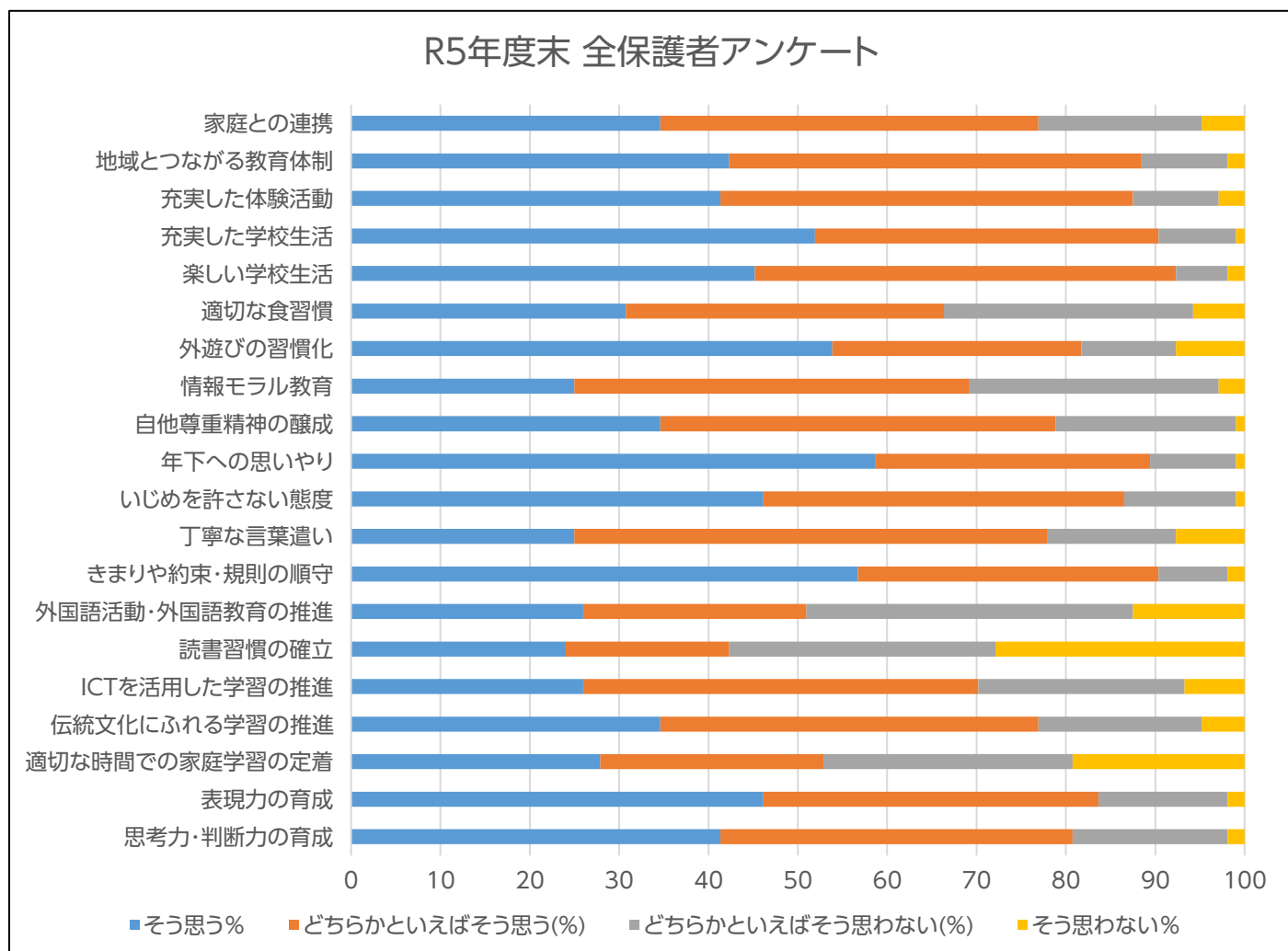
否定的意見の割合が31～40

否定的意見の割合が21～30

・今回の保護者アンケートで肯定的意見が高い割合だった項目は、「思考力・判断力の育成」「表現力の育成」「きまりや約束・規則の遵守」「いじめを許さない態度」「年下への思いやり」「楽しい学校生活」「充実した学校生活」「充実した体験活動」「地域とつながる教育体制」の9項目であった。その中でも、「きまりや約束・規則の遵守」「楽しい学校生活」「充実した学校生活」いずれの項目も 90%以上の保護者が肯定的な評価をしており、これらの項目については、今年度、達成できたと考えられる。また「年下への思いやり」は 89%、「充実した学校生活」「地域とつながる教育体制」は 88%、「いじめを許さない態度」は 87%の達成率であり、これらの項目についても、ほぼ目標は達成されたものと思われる。分野別にみると、学校と生活の分野は高い評価であり、生徒指導をはじめとした教育活動について、高い評価をしていると思われる。また、学校分野はとても高評価であり、今年度の学校運営において、達成できたのではないかと考える。「ICT を活用した学習の推進」「情報モラル教育」については肯定的評価が 70%

程度にとどまった。来年度、さらに取組の深化を図っていききたい。

・否定的意見が高い割合だった項目は、「適切な時間での家庭学習の定着」「読書習慣の確立」「外国語活動・外国語教育の推進」「情報モラル教育」「適切な食育」の5項目であった。「読書習慣の確立」については、肯定的意見が5割を満たさず、58%の保護者が否定的に回答している。この項目は、児童も群を抜いて低評価であり、家庭において読書をする機会がとても少ないという実態が明らかになった。読書は、想像力や思考力、判断力の育成に有効であり、その習慣化は是非とも図りたいところである。学校では、学校司書が図書館だよりを発行したり『推し本』コーナーで紹介して図書の本を身近に感じさせて、読書への興味や意欲付けを図ったり、読書ボランティアによる読み聞かせ活動の実施などの取組を行ったりして、児童が本に親しむ機会を設けている。家庭にも協力を仰いで、児童の読書習慣の確立を目指していきたい。「外国語活動・外国語教育の推進」「情報モラル教育」の2項目については、児童と教員は、80%以上と90%以上の高評価であるのに対し、保護者は低評価の項目である。学校での取組について、さらに周知を図り、理解を求めていくことが必要と思われる。



児童・保護者・教員の意識比較についての考察

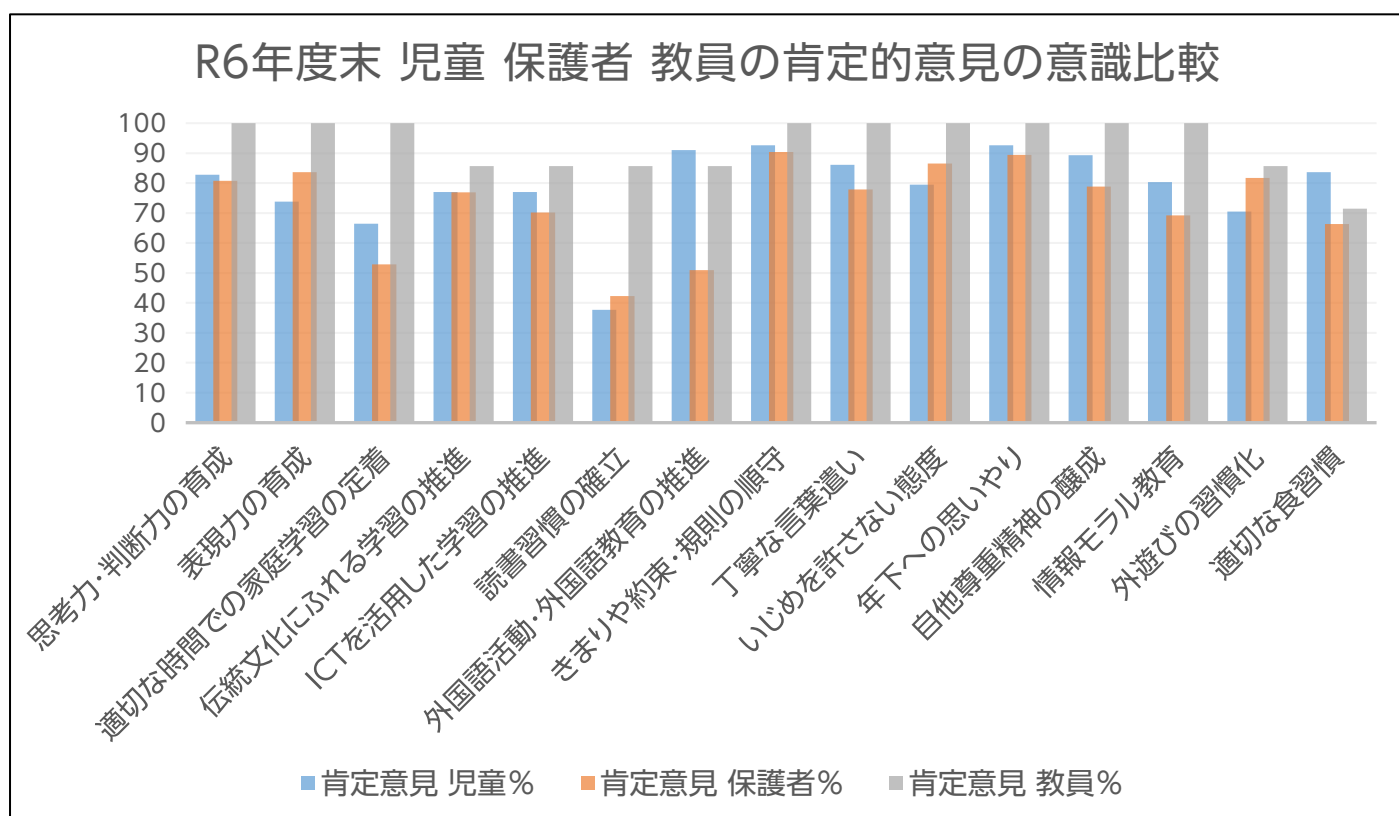
・三者とも肯定意見が 80%以上の高評価であった項目は、「思考力・判断力の育成」「きまりや約束・規則の順守」「いじめを許さない態度」「年下への思いやり」の4項目で、これらの項目について、今年度の教育活動において達成できたと考えられる。中でも「きまりや約束・規則の順守」は、肯定意見が教員が100%、児童が 93%、保護者が 90%と三者共に 90%を超える高い達成率であり、「年下への思いやり」も肯定意見が教員が100%、児童 93%、保護者 89%と高評価であった。これらについては、今年度の北小の教育活動において十分に達成されたと思われる。また、「授業中の運動量の確保」「楽しい学校生活」「充実した学校生活」については三者にアンケート調査をしていないものの、二者が 80%後半以上の高評価をしている項目であり、これらの項目についても今年度の教育活動において概ね達成できたと思われる。

R6 年度末アンケート児童・保護者・教員の意識比較

分類	番号	項目	肯定意見	肯定意見	肯定意見	否定意見	否定意見	否定意見
			児童%	保護者%	教員%	児童%	保護者%	教員%
学 習	1-①	思考力・判断力の育成	83	81	100	17	19	0
	1-②	表現力の育成	74	84	100	26	16	0
	1-③	適切な時間での家庭学習の定着	66	53	100	34	47	0
	1-④	伝統文化にふれる学習の推進	77	77	86	23	23	14
	1-⑤	ICTを活用した学習の推進	77	70	86	23	30	14
	1-⑥	読書習慣の確立	38	42	86	62	58	14
	1-⑦	外国語活動・外国語教育の推進	91	51	86	9	49	14
生 活	2-①	きまりや約束・規則の順守	93	90	100	7	10	0
	2-②	丁寧な言葉遣い	86	78	100	14	22	0
	2-③	いじめを許さない態度	80	87	100	20	13	0
	2-④	年下への思いやり	93	89	100	7	11	0
	2-⑤	自他尊重精神の醸成	89	79	100	11	21	0
	2-⑥	情報モラル教育	80	69	100	20	31	0
安 健 全 康	3-①	外遊びの習慣化	70	82	86	30	18	14
	3-②	適切な食習慣	84	66	71	16	34	29
	3-③	授業中の運動量の確保	95		86	5		14
学 校	4-①	楽しい学校生活	92	92		8	8	
	4-②	充実した学校生活	96	90		4	10	
	4-③	充実した体験活動		88			13	
	4-④	地域とつながる教育体制		88			12	
	4-⑤	家庭との連携		77			23	

肯定的意見の割合が90～100
 肯定的意見の割合が80～89
 否定的意見の割合が41以上
 否定的意見の割合が31～40
 否定的意見の割合が21～30

・評価に 20%以上の乖離が見られたのは、「表現力の育成」「適切な時間での家庭学習の定着」「読書習慣の確立」「外国語活動・外国語教育の推進」「丁寧な言葉遣い」「自他尊重精神の醸成」「情報モラル教育」の7項目である。これらは保護者と教員の間に 20%以上の乖離が見られ、教員は高く評価しているが、保護者は低く評価していて、両者間の意識に少なからず隔たりが見られた。しかし「外国語活動・外国語教育の推進」「丁寧な言葉遣い」「自他尊重精神の醸成」「情報モラル教育」の4項目については、児童と教員が高く評価している。これは、学校と家庭といった異なる場での児童の姿に違いがあるのか、児童のあるべき姿を求める基準に違いがあるのではないかとと思われる。また今まで以上に、学校での児童の様子や、学校での取組を発信していくことが必要ではないかとと思われる。「読書習慣の確立」については、三者ともに低評価の項目であり注意が必要である。改善に向けた新たな取組を行う必要があると思われる。



・二者の評価が低評価だった項目は、「適切な時間での家庭学習の定着」「読書習慣の確立」の2項目である。「読書習慣の確立」については、児童と保護者の否定的意見が 60%前後とかなり低評価となった。また、「適切な時間での家庭学習の定着」については、否定的意見が児童 34%、保護者 47%で、家庭における学習や読書の習慣が確立されていないことが明確となった。適切な時間で家庭学習を行うという

習慣を身に付けておくことは、生徒が上級学校へ進学した際に必要不可欠なことであり、今後より一層、家庭と連携して習慣化を図っていきたい。読書は、想像力や思考力、判断力の育成に有効であり、その習慣化は是非とも図りたいところである。学校では、学校司書が図書館だよりを発行したり『推し本』コーナーで紹介して、図書の本を身近に感じさせて読書への興味や意欲付けを図ったり、読書ボランティアによる読み聞かせ活動の実施などの取組を行い、児童が本に親しむ機会を設けている。今までの取組を継続しながら、さらに強化を図り、家庭にも協力を仰いで、児童の読書習慣の確立を目指していきたい。